

## 自己評価および外部評価結果(1F)

| 自己<br>外部    | 項 目 | 自己評価                                                                                    | 外部評価                                                             |                                                                                                                                                                                  |  |
|-------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|             |     | 実践状況                                                                                    | 実践状況                                                             | 次のステップに向けて期待したい内容                                                                                                                                                                |  |
| I. 理念に基づく運営 |     |                                                                                         |                                                                  |                                                                                                                                                                                  |  |
| 1           | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                      | 開所前に職員全員で意見を出し合い決めた理念を掲げ取り組んでる。                                  | 社是である「誠意を尽くす」と、事業所方針である「皆様をあふれる笑顔でささえます」を、事業所入り口とホールに掲げている。開設時に、「職員が利用者を笑顔でお迎えするのが一番ではないか」との考えで作りあげたものである。忙しい中でも必ず利用者と話をし、笑って過ごせるように心がけている。職員には理念の理解ということで研修やミーティングで話をし共有を図っている。 |  |
| 2           | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                      | 運営推進会議には自治会長に参加して頂いている。また、町内会に加入し回覧板の仲間に入れて頂いたり、散歩の際に挨拶など交わしている。 | 開設時の内覧会には近所からの参加者が多かった。事業所の隣組は10軒あり、この1年での変化は、近くの人から紹介で申し込みが来るようになった。また、地域の自主防災(町内)への訓練のお便りをいただき、利用者、職員ともども是非参加したいと予定しており、地域の中に溶け込もうと交流を深めている。                                   |  |
| 3           |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                    | 運営推進会議などの機会に問い合わせや質問があれば説明している。                                  |                                                                                                                                                                                  |  |
| 4           | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域包括支援センターや他グループホームの職員が参加しておりより良いサービスの提供が行えるように情報交換など行っている。      | 家族、自治会長、包括支援センター、薬剤師、法人職員、同地区グループホーム職員が参加し、活動報告、入居状況などが報告され意見交換がなされている。出席者より「開催案内が遅い」との意見があり、次回は早めるよう、できるだけ多くの方に参加していただけるよう計画しているところである。                                         |  |

| 自己 | 外部  | 項 目                                                                                           | 自己評価                                                                      | 外部評価                                                                                                               |                                                                                                                                               |
|----|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |     |                                                                                               | 実践状況                                                                      | 実践状況                                                                                                               | 次のステップに向けて期待したい内容                                                                                                                             |
| 5  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                 | 年4回開催している地域のグループホーム部会に市や地域包括支援センターの職員が参加することがあり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。 | 地域や市の主催の会議があり、参加して、新規の事業所として取り組みなどを説明しているが、会議や会合の回数も多く、事業所内の仕事の進行を考えると難しい時期もあるとのことである。現在はできるだけ参加して、連携を築けるように努めている。 |                                                                                                                                               |
| 6  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中は玄関の施錠はせず、閉塞感を与えないように配慮している。しかし、離接等の危険回避の為に赤外線センサーを設置している。              | 日中玄関の施錠はせず、玄関に赤外線センサーを設置している。制止はせず寄り添う形で見守っている。身体拘束しないケアのマニュアルは環境整備委員会で作成し整備され、研修は法人主催で受けており、身体拘束しないケアに取り組んでいる。    |                                                                                                                                               |
| 7  | 5-2 | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている       | 管理者、職員ともに研修に参加し、職員や入居者様の変化に気付くことが出来るように注意を払い日頃より注意をしている。                  | 法人による虐待の防止の研修の受講が行われ職員は積極的に参加している。ケアの現場では、職員がイライラを感じた(言葉や行動)時は、お互い声を出してバトンタッチしあいましょうと話し合い確認しており、虐待に至らないように努めている。   | 環境整備委員会を立ち上げて、今後の課題等話し合いが始まったが、まだ、「虐待防止に関するマニュアル」や「虐待を見逃さないためのフローチャート」などの整備はされていない状況であった。今後は、マニュアルの作成と共に、引続き虐待が見過ごされることがない支援に努めて行かれることが期待される。 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している   | 研修を行い、必要時に対応できるように準備している。                                                 |                                                                                                                    |                                                                                                                                               |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                        | 契約時などの際は時間を掛け納得いけるまで十分な説明を行っている。                                          |                                                                                                                    |                                                                                                                                               |

| 自己 | 外部  | 項 目                                                                                            | 自己評価                                                                          | 外部評価                                                                                                                                                                                         |                   |
|----|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |     |                                                                                                | 実践状況                                                                          | 実践状況                                                                                                                                                                                         | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 運営推進会議や面会時に聞いた意見や要望を受け、その都度実現に向けて取り組んでいる。                                     | 新設1年目の事業所であることを踏まえ、利用者や訪問される家族には、一言でも二言でも、なんでも話していただこうと話しかけ、意見等お聞きしていこうと、職員は心掛けている。                                                                                                          |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 管理者は日々職員からの意見を聞き反映させるよう努め、さらに月1回の管理者会議において代表者に意見を伝える機会がある。                    | 職員間で勤務時間の検討を実施した。職員から挙げた声を管理者は法人に挙げ、検討があり、曜日や活動状況によるAM・PMのパートの導入(就業時間の調整)となった。現在人事考課やストレスチェックなどの仕組みはまだ事業所では取り組んでいないが、「職員が辛いね」という思いにならないように、管理者は「とりあえず何でも言ってください」と話しかけ、職員ができるだけ話しやすいよう心掛けている。 |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 全職員に資格所得を奨励し、資格所得者には祝い金や資格手当を支給している。また、夏季休暇、冬期休暇(各3日)支給や勤続年数に応じリフレッシュ休暇などがある。 |                                                                                                                                                                                              |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 法人内外の研修に参加できるように、研修費の助成など行っている。                                               |                                                                                                                                                                                              |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域のグループホーム部会やケアマネ部会などの交流の機会があり、ネットワーク作りや勉強会などの活動に参加しサービスの質を向上させる取り組みをしている。    |                                                                                                                                                                                              |                   |

| 自己<br>外部            | 項 目                                                                                  | 自己評価                                                                               | 外部評価                                                                                                                                                                  |                   |  |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|--|
|                     |                                                                                      | 実践状況                                                                               | 実践状況                                                                                                                                                                  | 次のステップに向けて期待したい内容 |  |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 |                                                                                      |                                                                                    |                                                                                                                                                                       |                   |  |
| 15                  | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の事前訪問等をし、本人の困りごとや不安を傾聴し、家族の意見と照らし合わせながら本人が安心して暮らせる関係作りに努めている。                   |                                                                                                                                                                       |                   |  |
| 16                  | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 入居前の家族と面談を行い、今までの生活状況や入居に関する質問や不安に思っている事に耳を傾け、話し合う機会を持って信頼関係を築けるよう努めている。           |                                                                                                                                                                       |                   |  |
| 17                  | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 事前訪問やホームに来ていただく機会を設け本人や家族の不安を傾聴し、本人本位の支援、家族と信頼に努めて、他のサービスの説明を行っている。                |                                                                                                                                                                       |                   |  |
| 18                  | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 日々の生活の中で出来ることや今までの習慣を尊重し、食事やおやつ作りなどを共に食す時間を大切にして互いに支え合う関係性が築けるように努めている。            |                                                                                                                                                                       |                   |  |
| 19                  | 7-2 ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている     | 月に1度ホームでの生活の様子を担当者がおたよりを作成し家族に送っている。また、日頃から何でも話しやすい雰囲気作りを心がけ、入居者、家族、職員の信頼関係を築いている。 | 家族には「ふれあいだより」のお便りを通して定期的にいろいろ発信している。受診時は「新津むすびあい手帳」への記入で、協力医や他科受診・歯科・皮膚科などにも密に連携に努めている。管理者は、現在は連携体制作りを心掛けており、利用者、家族、地域の方、医療現場との関係が築かれてきている。利用者を共に支えあう体制作りを広げる努力をしている。 |                   |  |

| 自己                                 | 外部  | 項 目                                                                                 | 自己評価                                                                                         | 外部評価                                                                                                                                          |                   |
|------------------------------------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|                                    |     |                                                                                     | 実践状況                                                                                         | 実践状況                                                                                                                                          | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20                                 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                    | 近所の方や友人が訪問の際は、おもてなし等で、次回も訪問しやすい雰囲気を作っている。また、墓参りや行きつけの店などへの外出も自由に行きついでお互いの関係を継続できるよう支援に努めている。 | 事業所は、駅前商店街より少し住宅地に入った場所にあり、地域からの入居者もおられ、近所の方の訪問もある。利用者が近くの馴染みの喫茶店にコーヒーやランチを食べに行くのを楽しみにしており、墓参りや出身地域の行事を見に出かける支援を、家族と共に関係性が継続できるよう生活の中で支援している。 |                   |
| 21                                 |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                | 利用者様の特徴を把握して職員が間に入り孤立せず楽しく会話ができる場をつくり利用者様同士が関わり合い支え合える支援に努めている。                              |                                                                                                                                               |                   |
| 22                                 |     | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後でも要望があれば相談・支援を行っている。                                                                  |                                                                                                                                               |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |     |                                                                                     |                                                                                              |                                                                                                                                               |                   |
| 23                                 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                        | 日常の会話や何気ない言動、表情、状態から思いなどをくみ取り、本人らしさが出るように家族からの情報も照らし合わせ、本人の意向に沿えるよう心掛けている。                   | アセスメント様式は法人が定める方式に記入している。入所の際、入所後も訪問される家族やご兄弟などの会話から意向の把握に努めており、経過記録に記入加筆している。                                                                |                   |
| 24                                 | 9-2 | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                    | 入居前の本人、家族への聞き取りや、日常の会話の中から生活歴や暮らし方の把握ができるように努めている。                                           | 入居前の本人や家族の話は、会話の中から、できるだけ丁寧に聞き取りを行っている。面会時にも「ご本人が、こんな風な昔話をしていたのですか？」など、確認の話から利用者の生活歴史や暮らしてこられた様子など、少しずつ暮らしの把握ができるよう努めている。                     |                   |

| 自己 | 外部 | 項 目                                                                                                                | 自己評価                                                              | 外部評価                                                                                                                                               |                                                                                                                                                  |
|----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |    |                                                                                                                    | 実践状況                                                              | 実践状況                                                                                                                                               | 次のステップに向けて期待したい内容                                                                                                                                |
| 25 |    | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている                                                                 | 1人1人に目を向けて小さな変化や気づきを情報共有することでここに<br>応じた生活ができるよう把握に努め<br>ている。      |                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                  |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり<br>方について、本人、家族、必要な関係者と話し<br>合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、<br>現状に即した介護計画を作成している | 定期や必要時に、本人、家族、職員<br>から聞き取りを行う担当者会議を行<br>い、作成している。                 | 本人がどのような暮らしを望むのかを家族来訪時<br>に聞き取りをし、職員は日々の関わりからミーテ<br>ィング開催時に話し合い、利用者の状況を把握して<br>いる。更新時には介護職員2～3名と計画作成者<br>でサービス担当者会議を開催し、利用者の現状に<br>即した介護計画を作成している。 | 開所して1年目ということで入所者も1年未満で<br>あることから、入所前の過ごし方や暮らしぶり、<br>または他事業所でのサービス利用時の状況<br>等、生活環境も含め、入所後の自立に向けた<br>支援計画作成の為に担当者会議においては<br>職員だけでなく、本人・家族の参加も望まれる。 |
| 27 |    | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工<br>夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有<br>しながら実践や介護計画の見直しに活かして<br>いる                        | 日々の様子を個別にケース記録に<br>記録し、特変があった際は別紙にも<br>記入する。申し送りを行い情報の共<br>有している。 |                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                  |
| 28 |    | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニー<br>ズに対応して、既存のサービスに捉われな<br>い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り<br>組んでいる               | ミーティングの機会に支援方法につ<br>いて話し合っている。                                    |                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                  |
| 29 |    | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を<br>把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全<br>で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援<br>している                         | 多目的ホールを地域の方に開放して<br>いる。また、地域のお祭りに参加して<br>いる。                      |                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                  |

| 自己 | 外部 | 項 目                                                                                                                 | 自己評価                                                                         | 外部評価                                                                                                                                                                                |                   |
|----|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |    |                                                                                                                     | 実践状況                                                                         | 実践状況                                                                                                                                                                                | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                 | 本人、家族の要望も検討し、むすびあい手帳を活用し、情報を共有しかかりつけ医からの適切なしじを仰いでいる。また、薬剤師とも連携し支援を行っている。     | 利用者の半数以上が本人、家族の希望する、かかりつけ医での受診となっており、他は事業所の協力医となっている。受診時において医療関連は秋葉区共通の「むすびあい手帳」により、医療連携が図られスムーズに受診支援が実施されている。また、1週間に1回薬剤師の訪問により薬の管理や相談もできている。利用者の状態によっては法人内の看護師が24時間対応できる状況となっている。 |                   |
| 31 |    | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 看護師との連絡表を作成し、情報を共有している。24時間体制でいつでも助言、指示がもらえ、医師とのやりとりはむすびあい手帳などを活用している。       |                                                                                                                                                                                     |                   |
| 32 |    | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 定期的にお見舞いに行き、医療関係者などと情報を共有している。また、スムーズな受け入れができるように相談等も行っている。                  |                                                                                                                                                                                     |                   |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 入居前や必要時には事業所でできることの説明を行っている。現在終末期までの対応実績はないが、少しでも変化があった場合には家族に報告できる体制を整えている。 | 事業所では看取りも視野に重度化対応に関する指針を利用契約書に明記し、管理者は家族に説明と共に同意を得ている。開所1年ということで看取りの実績は無いが、急変時や緊急時には法人内の看護師と連携を図りながら最善の支援で対応して行くとしている。                                                              |                   |

| 自己                               | 外部     | 項 目                                                                              | 自己評価                                                               | 外部評価                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                  |        |                                                                                  | 実践状況                                                               | 実践状況                                                                                                                                                                | 次のステップに向けて期待したい内容                                                                                                                                                                      |
| 34                               | (12-2) | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている           | 開設時に看護師による症状別の応急手当の講習やAED講習を行っている。また、急変時の連絡体制を定期的に確認している。          | AEDの設置もあり、開所時には職員全員が講習を受けている。事業所ではマニュアルの見直しや利用者の状態に併せたフローチャートを作成中であり訓練も実施して行きたいと考えている。また秋葉区消防署から発行された「アクションカード」により、緊急時の救急依頼が必要となった時の安心となっている。                       | 日々の生活環境の中で起りやすい事故や急変に備えて、できるだけリスクの回避を考えておくことが必要と考えられる。準備されているマニュアルもあるが、職員が利用者の緊急時には目に触れやすく、いざという時の備えとしてのフローチャートとアクションカードの活用と共に、「今後こうして行きたい」と考えていることを一つひとつ積み上げて行くことで、完成度を高めていくことを期待したい。 |
| 35                               | 13     | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている           | 防災訓練や災害対策についての研修を行っている。事業所内では年2回の避難訓練を実施し、夜間想定訓練も行っている。            | 事業所単独での避難訓練を夜間想定で2回実施し、消防訓練実施報告をしている。災害時の備蓄もあり、停電時は発電の備えもある。今後は消防署を招いての実施も予定している。事業所は住宅密集地の中であることから、火災のみならず地震、水害対応も地域住民を巻き込みながら、相互に協力体制を構築して行くことも合わせて検討して行くことを勧めたい。 |                                                                                                                                                                                        |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |        |                                                                                  |                                                                    |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                        |
| 36                               | 14     | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 1人1人の人格を尊重し、入浴、排泄時にはプライバシーに配慮した声掛け、介助を行っている。                       | 事業所開設後に職員は法人の実施する接遇研修を受け、人の尊厳やプライバシーについて学んでいる。また、入浴時、排泄時のマニュアルも用意もされているが、管理者は日々の関わりの中で職員のイライラや気になる行動を感じたときにはバトンタッチをしたり注意喚起している。                                     |                                                                                                                                                                                        |
| 37                               |        | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 入居者がどうしたいのかなど聞く耳を持つようにしている。自己決定ができるように援助することに努めている。                |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                        |
| 38                               |        | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ホールでレクをしたり、お話などをされ一日を過ごすことが多い。居室で過ごす時間が必要な時は無理強いないで、利用者様の意思に任せている。 |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                        |

| 自己 | 外部 | 項 目                                                                            | 自己評価                                                                                  | 外部評価                                                                                                                                                                |                   |
|----|----|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |    |                                                                                | 実践状況                                                                                  | 実践状況                                                                                                                                                                | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 |    | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                | 起床時にはご自分でできる方は更衣、整容され、必用な方には支援している。また、出張サービスの理美容の利用により、さっぱりした気持ちで過ごしていただけるように支援しています。 |                                                                                                                                                                     |                   |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている   | 食事の盛り付けについては、入居者と楽しみながら行っている。職員も同じものを一緒に頂いています。食器の片付けはできる方をお願いしている。                   | 食事メニューは法人の管理栄養士の作成したものを参考に、事業所オリジナルの献立を作っている。週1回は、お任せメニューとして利用者の希望を聞いている。日々の食事作りには準備から片づけまで、その人のできることに参加してもらっている。食卓には畑で収穫した夏野菜も並び食事が楽しみになるよう努めている。また季節ごとの外食も楽しんでいる。 |                   |
| 41 |    | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている        | 毎食事の食事量・水分量については1日を通してチェック、記録し把握をしている。                                                |                                                                                                                                                                     |                   |
| 42 |    | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                 | 毎食後、歯磨きの支援を行っている。毎晩義歯を洗浄剤で洗浄している。                                                     |                                                                                                                                                                     |                   |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表に記録し排泄パターンを把握している。時間を見てトイレ誘導することになっている。                                        | 利用者一人ひとりの排泄の間隔をチェック表に記録し、個々の排泄パターンの把握に努めたトイレ誘導をすることでパット使用から布パンツに改善したり、利用者の様子に合わせて声掛けすることで自発的にトイレに行けるようになったり、パット使用量が減って家族に喜ばれるなど、自立に向けた支援をしている。                      |                   |

| 自己 | 外部 | 項 目                                                                                                         | 自己評価                                                                | 外部評価                                                                                                                                                 |                   |
|----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |    |                                                                                                             | 実践状況                                                                | 実践状況                                                                                                                                                 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 |    | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                                              | 排泄状況を把握したり、水分摂取量のチェックを確認し、水分補給を促している。適度な運動や体操への取り組みもしている。           |                                                                                                                                                      |                   |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 入浴日は決まってはいるが、状況に応じて変更している。入浴の際は楽しい会話を心掛けてゆっくり入浴して頂けるように努めている。       | 入浴は週2回を基本としている。利用者の状況によっては午前や午後など、利用者のタイミングに合わせて臨機応変に柔軟な対応をしている。1階2階の浴槽の造りも異なっており、身体機能が低下した利用者には2人介助で対応している。また、季節のゆず湯などで変わり湯も楽しんでもらっている。             |                   |
| 46 |    | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                                               | 昼寝など自由に過ごして頂いているが、できる限り昼夜の活動を増やし夜にぐっすり休まれるように支援している。                |                                                                                                                                                      |                   |
| 47 |    | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている                                          | 薬剤師による居宅管理指導を導入しており、1人1人に決められた服薬を間違いなく服用していただけるような体制となっている。         |                                                                                                                                                      |                   |
| 48 |    | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 1人1人にあったお手伝いをして頂き感謝を表し、張り合いが持てて、毎日を過ごしていただけるように支援している。              |                                                                                                                                                      |                   |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 頻度はまだ少ないが、職員と共に買い物や散歩に出かけることや毎月の外出レクを計画したり、ドライブに行けるように協力しながら支援している。 | 日常的な外出となると頻度は少ないが畑のところまで行って野菜を採ってきたり、日曜日には希望に応じて買い物や外食、または利用者の馴染みの喫茶店などにも職員が付き添って希望に添えるようにしている。催事では加茂川の鯉のぼりを見に行ったり、月に1回位の頻度で外出レクの計画もあり利用者の楽しみとなっている。 |                   |

| 自己 | 外部 | 項 目                                                                                                                              | 自己評価                                                                           | 外部評価                                                                                                         |                   |
|----|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |    |                                                                                                                                  | 実践状況                                                                           | 実践状況                                                                                                         | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |    | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している                                                  | 家族よりお小遣いを預かっており、必要な日用品やおやつなど買い物できるように支援している。                                   |                                                                                                              |                   |
| 51 |    | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている                                                                           | 頻回ではないが家族からの電話連絡の取り次ぎをしている。今後も必要時に支援をしていく。                                     |                                                                                                              |                   |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居心地よく生活できるように、毎日、共用部分と居室の掃除をしている。また、季節感が分かるように掲示物を貼ったり工夫している。                  | 事業所の天井は高く、明り取りの窓から外の陽射しを取り込めるようになっている。ゆったりとしたホールに、更に開放感を添えている。和室の設えには大きな堀炬燵が用意されており、冬は炬燵で夏は畳で寛げるようになっている。    |                   |
| 53 |    | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている                                                      | 共用スペースにはテーブル、椅子、ソファールがおりてあり、畳コーナーの小上りも設置されている。気の合った利用者様同士で思い思いに過ごせるように配慮している。  |                                                                                                              |                   |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                                          | 入居時には適宜、使い慣れた家具や衣類などを居室に置くようにしている。家族の写真を飾ったり思い出の品を置き居心地よく過ごせる空間を工夫している。        | 馴染みの生活用品の持ち込みは自由となっており、自宅に近い環境で各々思い思いの部屋づくりがされている。ベットは持ち込みの人、レンタルの人、畳の人と様々である。収納庫も設置され整理整頓ができ清潔で快適な居室となっている。 |                   |
| 55 |    | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している                                             | 床はバリアフリー設計になっており共用の廊下には手すりを設置している。ご自分の居室に名前を明記したり、トイレの場所が分かるように目印をつけて支援を行っている。 |                                                                                                              |                   |